

銀漢亭日録



伊藤伊那男

8月14日(水)
18日(日)

▼寝たり起きたり選句したり文章を書いたり……ぐずぐず過ごす。桃子一家は沖繩へ行ったきり。杏一家は山口から九州と。五日間の内、三日間は酒飲みます。

20日(火)

▼今日も客少なし。新潟日報の文化部記者、大日方英樹氏、北村皆雄監督の紹介とて来店。長野県出身。伊那さん交えて話。そこへ長生子さん、句友の市川さん、松山北高校先輩、興銀OBと。松山さんは仕事で伊那谷に七年関わり、長生子さんは京都生まれながら信州大学農学部。全員が長野関連のカウンターとなる。だが、そのあと客は「天為」編集部三人他……と淋しい。

21日(水)

▼発行所「梶の葉句会」選句に。十三人。店、「三水会」六人。発行所「はてな句会」、あと四人。中島凌雲君とフィアンセ、夏休み終えて今日帰阪と。

22日(木)

▼清人さん主催「気仙沼大島シーフードの会」。兄上、信一さんが送ってきた蒸し鮑を中心に蛸、烏賊刺、その他。十二人。「銀漢句会」あと十六人。国会議員のT氏。……久々盛況。

23日(金)

▼区健康診断の結果、ややメタボ。あとはほくりア

24日(土)

▼午後、よみうりホール「三輪山セミナー・イン・東京」。武田さん他「煤逃吟行会」メンバーで。寺沢薫、和田萃氏の講演を聞く。あと一人、渋谷「福ちゃん」で鮎、海鞘、牡蠣。あと焼鳥屋……あと讃岐うどん屋……ああ、また。

26日(月)

▼堀切克洋君渡仏壮行会。結社を超えて何と六十八名が参集す。前面道路まで人が溢れる。(婚約てふ堀ひとつ

28日(水)

▼盤水先生の命日。事業部に大野田好記君加わり伊那谷吟行の打合せ。

29日(木)

▼店「雛句会」十人。西村和子、阪西敦子さん、林望さんの「謹訳 源氏物語」出版パーティーあと寄つてくれる。池内けい吾さんより葡萄。

30日(金)

▼原稿書きなどの手がすいたので礼状など。店、池田のりをさん誕生会として十人程集まる。大西君幹事。全体閑散……ああ月末。

31日(土)

▼日本橋「与志喜」にて「纏句会」。フルメンバー。兼題の鯖の味噌煮、鰻の土瓶蒸など。あと握り。終つて渋谷「福ちゃん」に寄り、海肝豆腐、蛸でビール。さすがに疲れあり、これだけで止める。

9月1日(日)

▼昼、一家来て、家の改装の件、四時、成城。久々、家族の食事会。持参した蟹、博多モツ鍋、シャンドン二本空ける。「半沢直樹」を見てから帰宅。少々夏の疲れあり。

2日(月)

▼店、橋本有史さん六人。発行所「かさ、ぎ俳句勉強会」九人。今日は石原八束と。

4日(水)

▼「宙句会」あと八人。堀切君渡仏前最後の句会か。秋葉男、洋酔、志峯、大野田、真一……など別れを惜しみつつ来店。坪井さんからシャンパン……。

5日(木)

▼朝方、激しい雨。ゴミ出しもできない程。京王線落雷でストップと。発行所「十六夜句会」武田編集長ゲスト。あと八人。オリックスの元部下堀尾君三人。

7日(土)

▼九時、整体！制裁と思うほど効く。散髪、日用品の買物など。礼状他。「銀漢」九月号校正。十七時、日本橋公会堂にて「ジャバトラ特別記念公演」。味わいのある

18日(水)

▼店、高校同期「三水会」。「高遠句会」の加藤恵介君も顔を出してくれる。発行所「はてな句会」。店「銀漢亭 Oh! 月見句会」。今日は待宵。十五人程集まる。持寄三句、席題二句。清人さん焼きそば。展枝さん、団子その他供物。淳子さん、芒他の供花。折しも待宵の綺麗な月があがる。

19日(木)

▼店、早い時間から賑わう。「銀漢句会」あと二十四人。中秋の名月、見事！小島正さん久々。郷里の今井先輩。

20日(金)

▼「野村句会」あと店へ五人。十月号発送。禪次さん三菱商事時代の部下二人と。鷺巣さん東北大学楽焼クラブの同窓会七人。

21日(土)

▼「あずさ一号」にて茅野。大野田君迎えに来てくれる。「井月俳句大会」へ。途中、母校、伊那北高校に寄つてもらふ。

22日(日)

▼高遠にて皆と分かれたあと、黒河内文江さんに火山峠經由で駒ヶ根に送ってもらう。従兄弟(母の実家)を訪ね、酒盛。同期の佐々木君という方が訪ねて来てくれる。二歳の時、重病になったが、赤貧の家に金なく、私の父を頼ったら、当時高価だったベニシリンを使つてくれて生き返った。私の父が命の恩人であると。結局、治療費は払わず仕舞と。

23日(月)

▼折しも秋祭。夜中、三時半、五十鈴神社の「神迎」を見学。見物人は私一人。午前中、お練りを見る。同期の杉本市長が笛方について握手。小中学校を訪ねてみる。天野貞祐の「正しく働いて正しく生きる」の碑……うゝむ。再び従兄弟の家で酒を飲み、「あずさ」で帰宅。

24日(火)

▼高校先輩の井ノ口氏、新橋芸妓のみえ子さんと。東京で井上井月忌の集いを開きたいとの相談あり。

8日(日)

▼終日家。「俳壇」十一月号、若手トップランナー相沢文子論。「俳句」十一月号特集「一句を際立たせる！『禁じ手』の効果」の「切字の重なり」について。「俳句」十一月号のエッセー。「銀漢」十月号校正。などなど仕上げる。酒飲みます。

9日(月)

▼「平成俳壇」仕上げ発送。店閑散。最悪状況かという二十一時過ぎ、「天為」橋本有史さん句会メンバー七人来店。最低記録を免れる。少し早めに閉めたので地元で浅酌す。

10日(火)

▼俳人協会主催の全国俳句大会あと「雲の峰」朝妻、三代川、多加子さんら十一人寄つてくれる。池谷さんが鷹羽狩行特選と。「火の会」八人。長崎の坂口晴子さんが岩本、古木、敷原さんと。賑やか。

11日(水)

▼昼、発行所「梶の葉句会」選句に。夜「きさらぎ句会」終つて八人。藤井滝雄公認会計士、久々。太つて半ズボン姿。

12日(木)

▼亡妻の弟、博吉君より彦根の伯母、雅子さん逝去と。妻を母親がわりに育ててくれた方。葬儀、日程上、訪問できず……。店閑散。

14日(土)

▼十時、運営委員会、十三時より、「銀漢本部句会」五十三人。あと「さくら水産」にて親睦会二十人程。鈴木踏音子さん、伊香保吟行案内のため、わざわざ高崎から参加してくださる。

16日(月)

▼いよいよ台風十六号直撃の模様。雨戸閉める。終日家。十一月号の選句。法政大学人間環境セミナーの講演の構想を練る。二日間酒飲みます。